

タイ高田（TTC）の紹介

1. 会社概要

名 称 : THAI TAKADA Co., Ltd. (タイ高田)
 所 在 地 : 140 One Pacific Place Bldg., 16th FL.,
 Unit 1601-03, Sukhumvit Rd.,
 Klongtong District, Bangkok 10110
 代 表 者 : 廣橋 幸一
 設立年月日 : 2012 年 12 月 25 日
 資 本 金 : 6,000 千バーツ (≒21,000 千円)
 事 業 内 容 : ① 化学・製鉄プラントおよび各種製造設備における建設およびメンテナンス
 ② 回転機、圧力容器や配管等の劣化診断や設備改善提案等
 生 産 高 : 2014 年度実績 3,300 千バーツ

2. 設立までの経緯

前中期経営計画（2012 年度～2014 年度）における海外事業戦略の施策として、経済成長が見込まれるアジア地域を中心に積極的な海外展開を推進していくため、ベトナム、タイ、インド、ミャンマー、カンボジアについて、市場性・顧客動向・受注環境・進出形態等の調査、個別プロジェクト受注や新規拠点設置等に向けた方針整理・提案等を実施し、事業化に向けた可能性を追求してきた。

その結果、タイが市場性・インフラ・日系企業数など、他の国と比較して、事業環境が最も整っており、2012 年 1 月、進出に向けた具体的な調査をタイに絞って実施することを決定した。当初は駐在員事務所での進出を視野に入れていたが、駐在員事務所では設立のための審査に時間を要することや設立後の活動に制限があることなどから、2012 年 9 月、現地法人にてタイでの事業化に向けた取組みを進めていくことを方針決定した。そして、2012 年 12 月 25 日に登記を行い、現地法人設立に至った。

3. 現地法人として活動開始

現地法人としての登記は、前述のとおり、2012 年 12 月に完了したが、現地従業員の採用等もあり、会社としての運営は、翌年 2 月から日本人 1 名と現地従業員 4 名の体制でスタートさせた。

運営をスタートさせたとはいえ、会社としてのシステム等はまだまだ不十分であり、現地の法律やルール等を確認しつつ、会計システムをはじめとした仕組みづくりから着手し



図 1 タイ高田のスタッフおよび事務所が入居するビル

た。また、今回の設立にあたっては、プロジェクト等の案件ありきでのスタートではなく、事業化に向けた調査活動から進めていくことで設立したため、現地の日系企業を訪問し、幅広く情報収集を行うとともに、現地サブコンやサプライヤーの調査についても、並行して進めていった。

タイへ進出している日系企業は自動車関連を中心に多くあるものの、すでに進出してから時間も経過しており、メンテナンスをはじめとした協力会社の体制もある程度形成されている中において、タイでの実績のない当社の参入は決して容易なものではなく、海外進出の難しさを痛感させられた。

2014 年度に入り、前年よりタイ国内で続いていたデモ騒動による政治的混乱は、軍によるクーデターにより、沈静化した。その後、軍部による暫定政権が樹立され、現在まで事実上の軍政が続いている。そうした中、タイ高田としての初受注をようやく獲得することができた。金額的には小さいものの、今後の事業活動を進めていく上で、大きなきっかけとなる受注であった。

4. 今後の展望

タイ高田を設立して、3 年目を迎えた。そうした中、2015 年 11 月 30 日付で「Kikuchi Industry (Thailand) Co., Ltd. (以下 KIT)」の株式を取得し、子会社とした。KIT は 1993 年に設立され、タイ石油公社との取引もある日系配管工事会社であり、タイでの事業基盤を確立している。今後 KIT の施工技術・施工能力を発展・拡大させ、タイにおける事業展開を加速させたい。

廣橋 幸一（タイ高田）